



大清水中だより

教育理念 自由と責任

2020年6月2日発行 6月号 <http://www1.fujisawa-kng.ed.jp/johsh/> TEL 0466-50-8353
藤沢市立大清水中学校 〒251-0002 藤沢市大鋸 1400 校長 百武 三郎

3月からの3か月間、学校から消えていた生徒たちの元気な姿が戻ってきました。青天の霹靂のような今回の事態。未だに心の整理がつきませんが、少しずつ新しい日常を取り戻すよう（作り上げるよう）に努めていきたいものです。夏休みの経験はあっても3か月に及ぶ長期の休みは経験がありません。また、外出を控えてきたことも経験がありません。お知らせでもお伝えしたように段階的に学校を再開させていきます。ご家庭の協力をぜひお願いいたします。

まずは生活のリズムづくり！

3か月に及んだ長い休校措置と自粛生活。気を付けていたつもりでも生活のリズムは乱れがちかと思えます。学校も生活のリズムを取り戻してほしいこともあり、学校生活の本格始動に向けて段階的に取り組んでいます。聞いた話ですが、朝一番に日の光を浴びることが体の時計を正常化してくれるそうです。朝食をとること、排泄をすること、着替えること、歯磨き、入浴など。これまで当たり前に行ってきたことを改めて丁寧に行っていくことで生活のリズムが整ってきます。学校でも、家庭でも日常の当たり前に取り組んでいきましょう。



春は出会いの桜、そして再開（再会）のアジサイ

入学式の時には桜の花が新生を迎えてくれました。しかし継続された臨時休校。季節は移り変わり学校再開した6月1日。登校してくる生徒を、境川沿いのアジサイたちが雨粒に輝きながら迎えてくれました。外出自粛、クラスター、ステイホーム、オーバーシュートなど、いろいろな言葉が聞かれたここしばらくですが、自然は正直なもので6月には6月の風景を見させてくれます。大清水中学校には大清水中学校らしく、アジサイの花が生徒達を出迎え、授業再開と仲間との再会をを応援してくれているようです。アジサイの花言葉は「辛抱強い愛情」だそうです。ここまで辛抱強く外出を控えてきた生徒達。職員も生徒たちに愛情いっぱいに応えていきたいと思っています。



ソーシャルディスタンスを心掛ける

今から100年ほど前にスペイン風邪と呼ばれる病気（インフルエンザ）が世界で猛威を振るい、世界では4000万人以上日本でも多くの人々が感染し30万人以上もの死者を出したそうです。（数値は諸説あり）。今ほど医療水準が高くなかった当時の対策は、「人ごみに行かない」「マスクを着用する」



「うがいをする」「家族に患者が出たら部屋を別にする」ということだったようです。内容的には100年たった今の新型コロナウイルス対策とさほど変わりはありません。どんなに科学技術が進歩しても、医療水準が高くなっても、私たちが身近にできる対策はさほど変わらないのです。学校でも「体調が不安な時は登校しない」「登校時はマスクの着用」「手洗い、うがいの励行」を生徒



に呼び掛けています。そしてもう一つ。人との距離をできるだけ保って、可能な限り密閉・密集・密接（いわゆる三密）を避けてほしいということです。学校の廊下には密接を避けるため、右側通行をするよう表示をしました。完全な学校再開に向けて学校も頑張ります！